

2017年3月期 第2四半期
決算説明会

2016年11月4日
日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

1

決算概要

2

中期経営計画「Innovative Challenge Plan」 の進捗

製品販売減により前年同期比減収も、
サービスの増収および利益率改善等により増益

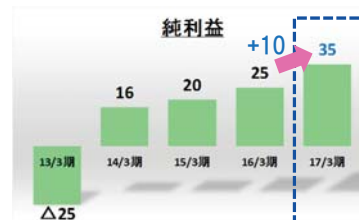
(単位：億円)

	上期 (4-9月)		前年同期比増減	
	2017/3期	2016/3期		
売上高	1,274	1,283	▲9	▲0.7%
売上総利益	308	297	+11	+3.8%
販管費	▲258	▲254	▲4	▲1.7%
営業利益	50	43	+7	+16.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	35	25	+10	+40.7%
受注高	1,327	1,325	+2	+0.2%
受注残高	2,169	2,144	+24	+1.1%

<上期決算のポイント>

- 売上高
システムサービス、アウトソーシングが伸長するも、製品販売の減少により減収。
- 営業利益
サービスの増収および利益率改善等により増益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益
営業増益および営業外損失の減少等により増益。
- 受注高・受注残高
アウトソーシングを中心に受注高、受注残高ともに増加。

■上期 (4-9月) 業績の5カ年推移 (単位：億円)



UNISYS

決算の概要について、ご報告申し上げます。

上期の業績は、売上高は1,274億円、前年同期比▲9億円の減収となりました。
営業利益は前年同期比+7億円増益の50億円、
四半期純利益は前年同期比+10億円増益の35億円となりました。

売上高につきましては、システムサービス、アウトソーシングが伸長したものの、
製品販売の面で減少となり、若干の減収となりました。
利益面では、利益率の改善等から、売上総利益が前年同期比で+11億円の
増益となった一方、販管費は退職給付費用・外形標準課税の負担増等から
▲4億円増加し、営業利益は+7億円の増益となりました。
純利益におきましても、営業増益および営業外損失の減少等により増益となって
おります。

次に受注高につきましては、アウトソーシングの受注増加に伴い、
前年同期比+2億円増加の1,327億円となっております。
受注残高につきましても、前年同期比+24億円増加の2,169億円となっております。

また、下段に上期6カ月間の業績を5カ年推移で掲載しておりますが、利益は着実に
増益を続けております。

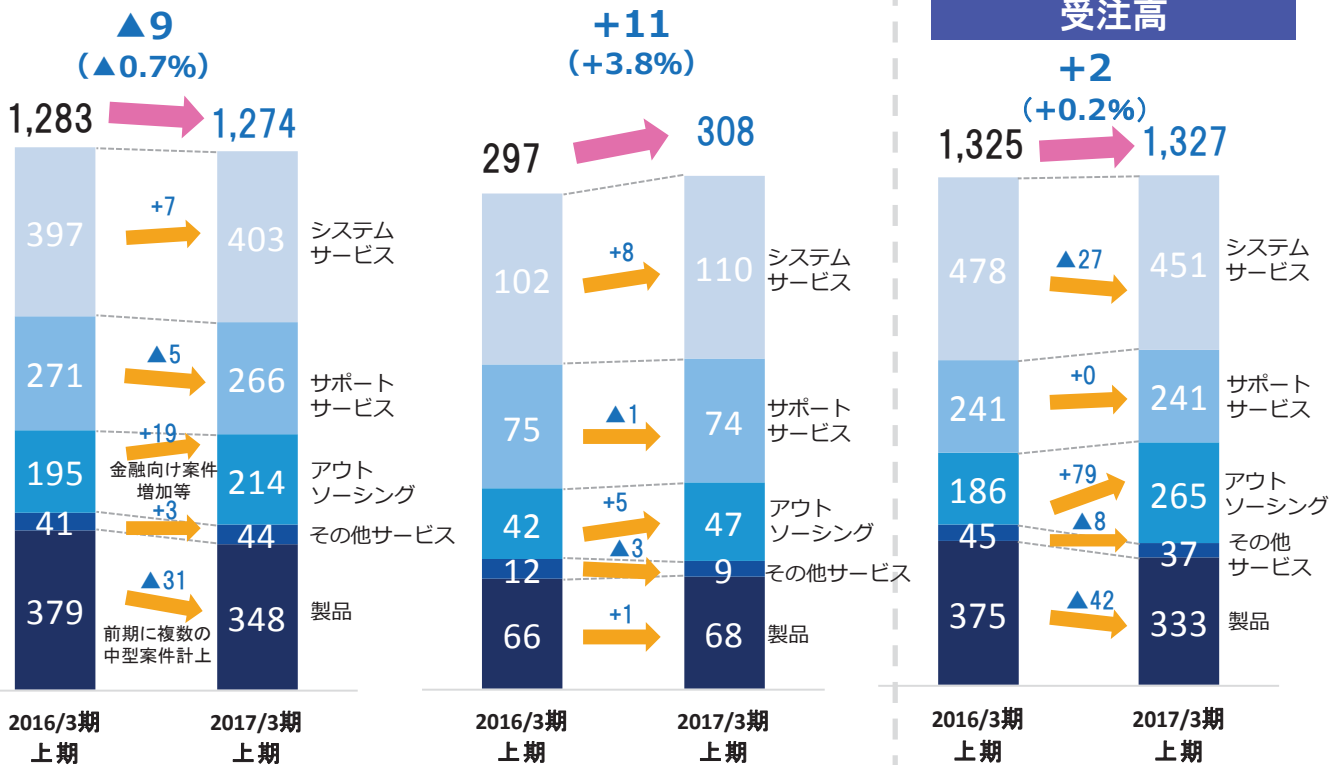
(単位：億円)

売上高

売上総利益

【ご参考】

受注高

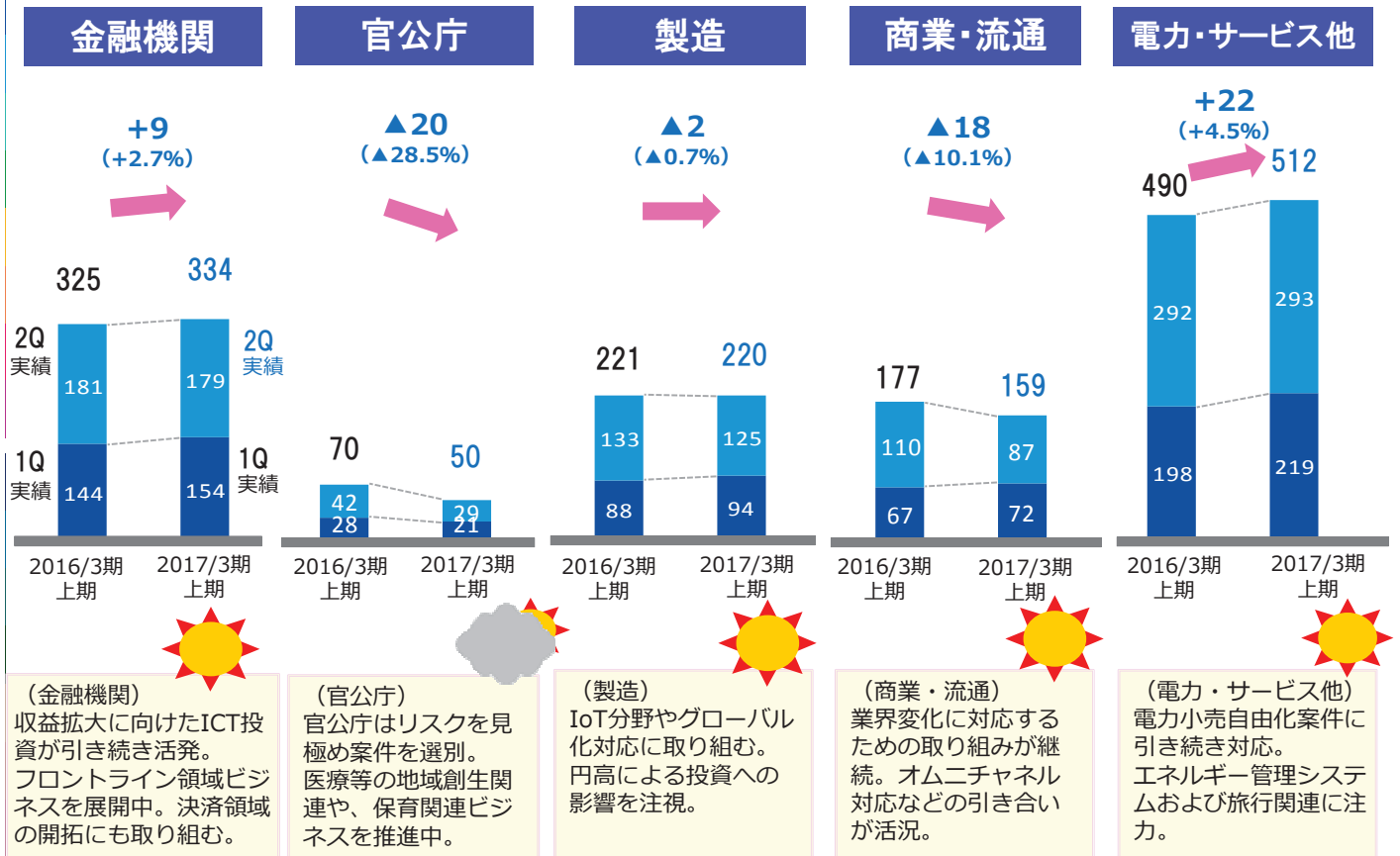


セグメント別の状況については、システムサービスおよびアウトソーシングは、引き続き堅調に推移し、増収・増益となっております。

製品販売については、前年同期に中型案件の計上が複数あった影響で減収となっておりますが、利益率につきましては改善していることから、売上総利益は前年同期並になっております。

当社は、ビジネスエコシステム創造のためのチャレンジと変革を推進しております。将来のエコシステム構築につながる案件に注力し、受注拡大に取り組んでいく所存です。

(単位：億円)



UNISYS

マーケット別でございますが、金融および電力・サービス他は引き続き売上が拡大しております。

金融は、銀行業界の競争が激化する中、収益拡大のためのICT投資は引き続き活発で、当社においてもフロントライン領域のサービスを積極的に展開しております。

官公庁はリスクを見極め案件を選別していることもあって、売上は減少していますが、地域医療連携などのヘルスケア分野や、保育分野でのビジネスに力を入れております。

製造は、引き続き自動車を中心に需要は堅調に推移しており、IoT分野への取り組み等を強化しております。

商業・流通は、前年同期に機器販売を中心とした複数の中型案件を計上した影響で減収となっておりますが、業界が大きく変化している中、お客様の投資意欲は活発で、オムニチャネル対応などの引き合いが増加しています。

電力・サービス他につきましては、キャリア向けの機器販売が減少した一方で、旅行およびサービス向け案件が伸長しております。

また、電力小売自由化案件も継続して対応してきております。

通期の売上高、営業利益、当期純利益の予想は
公表値（8月2日）から変更なし

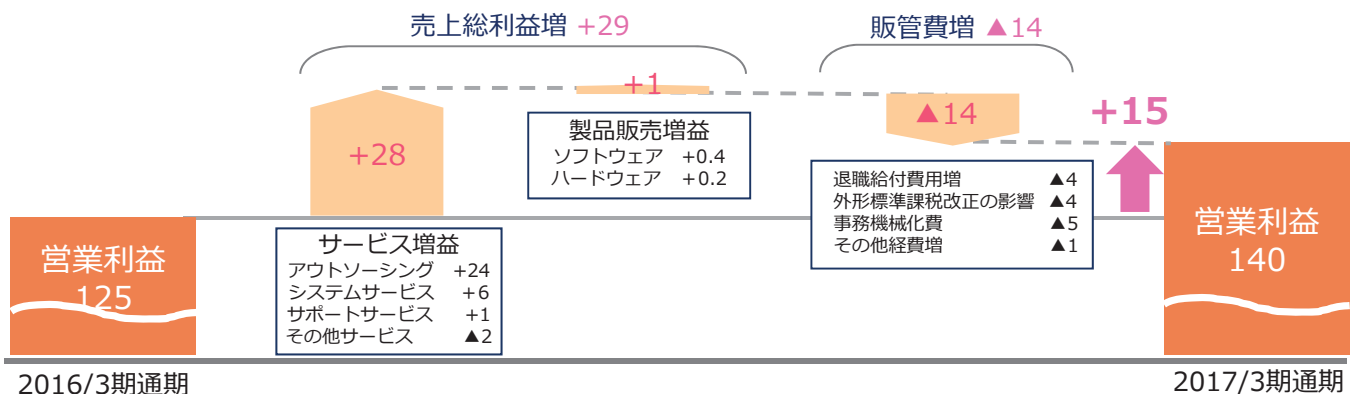
（単位：億円）

	2017年3月期 上期実績		2017年3月期 下期予想		2017年3月期 通期予想	
	金額	前年同期比	金額	前年同期比	金額	前年同期比
売上高	1,274	▲9	1,576	+78	2,850	+70
営業利益	50	+7	90	+8	140	+15
親会社株主に帰属する 四半期純利益	35	+10	65	+1	100	+11

* 通期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

（単位：億円、増減は前期比）

【2017年3月期 通期 営業利益の増減分解】



UNISYS

5

©2016 Nihon Unisys, Ltd. All rights reserved.

今後の業績予想についてご説明いたします。

通期予想の売上高、営業利益、当期純利益予想については、8月2日の公表値から変更ございません。

営業利益の増減益要因のグラフは下段にあるとおり、売上総利益は、アウトソーシングを中心に合計+29億円の増益を予定しております。また、販管費は退職給付費用の負担増等により▲14億円の増加を見込むことから、営業利益は+15億円増益の140億円を計画しております。

なお、上期は不採算は発生しておりません。

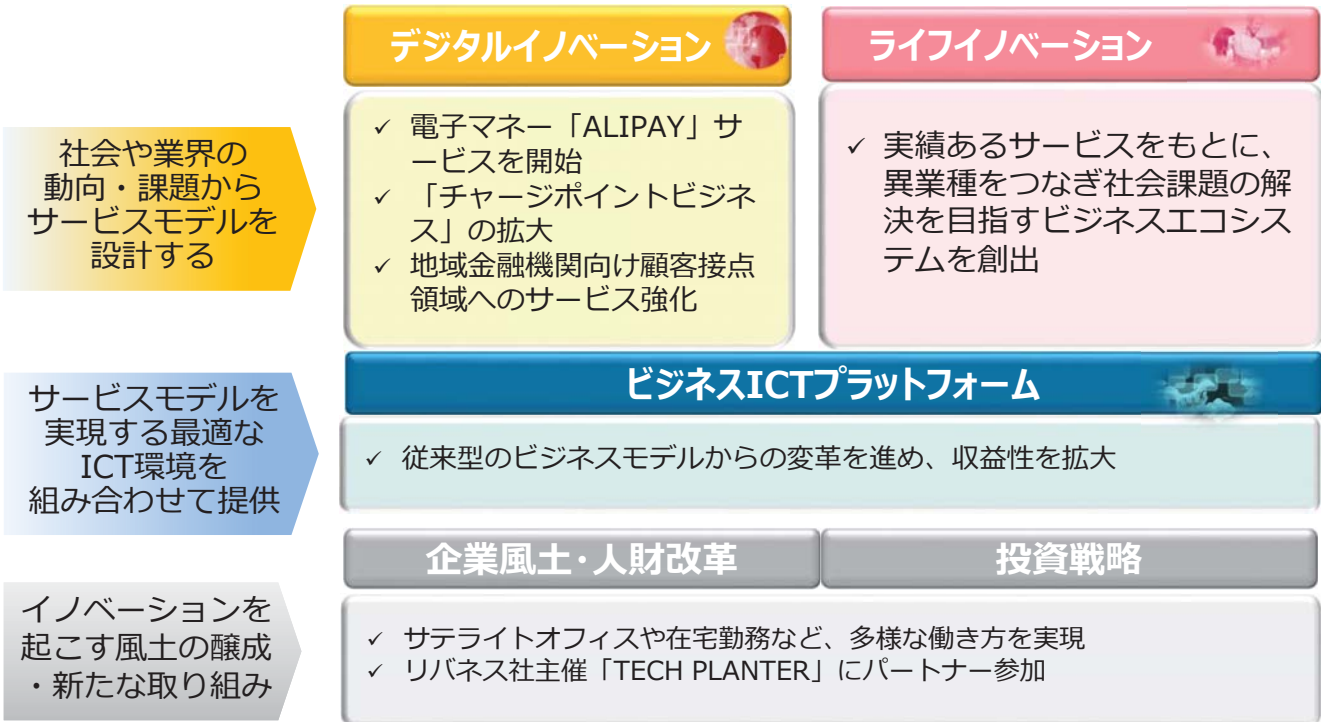
下期は特に予定はございませんが、不採算リスクとして▲5億円のリスクを見込んでおります。

1 決算概要

2 中期経営計画「Innovative Challenge Plan」の進捗

数字については以上でございますが、簡単に現中期経営計画に基づく、各領域での取り組み状況についてご説明させていただきます。

✓ 中期経営計画に基づく各領域での取り組み状況



日本ユニシスグループは平成28年3月期よりスタートした中期経営計画「Innovative Challenge Plan」において注力領域を掲げ、今期は2年目ということで、着実に実績が出てきております。

まず「デジタルイノベーション」領域では、従来より取り組んでおります決済関連サービスがさらに伸張するとともに、顧客接点領域においてもサービスが順調に拡大しております。

「ライフイノベーション」領域では、これまで様々なサービスを提供してまいりましたが、これらをつなぎ新たなサービスを生み出し、社会課題の解決を目指すビジネスエコシステムの創出に取り組んでおります。

「ビジネスICTプラットフォーム」領域では、従来のビジネスモデルを変革させ、その成果も着実に出てきていると感じております。

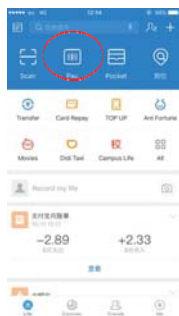
取り組みの代表的な事例をいくつかご紹介させていただきます。次のページをご覧ください。

デジタル イノベーション

✓高島屋、ドン・キホーテ、成田国際空港、ヤマダ電機、
ローソンなどで電子マネー「ALIPAY」サービスを開始※

ALIPAY（Alibaba Groupの関連会社が提供するモバイル決済
中国国内のシェア70%、4.5億人が利用する決済サービス）の決済システムを提供

①アリペイウォレットの
トップ画面からQRコード
を表示



②店員が金額等をレジに入力
した後に、バーコードスキャ
ナーまたは、タブレットのカ
メラにてスマホ画面を讀取



③即時に決済完了



※一部店舗展開先を含む

まず「デジタルイノベーション」領域でございますが、
従来から実績のあるプリペイドカードビジネスを中心に決済関連サービスが着実に成
長してきております。

2015年12月よりヤマダ電機様を皮切りに、中国では国内シェア70%、
4.5億人が利用するモバイル決済サービス「ALIPAY」の展開を開始しております。
その後、大手百貨店や国際空港など幅広い業種に提供を拡大しております。

この中で当社は、24時間365日のコールセンターを提供し、また、タブレット、
専用端末、あるいはPOS改修など様々な形態でのサービス提供を行なっております。
今後もこういう電子マネーのサービスについて拡大をしていく予定です。

デジタル
イノベーション

✓国内唯一の大規模国際ブランドプリペイドカードの
店頭リチャージサービス「チャージポイントビジネス」の拡大

チャージ拠点

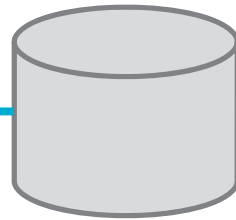
システム提供

発行事業社様

LAWSON

UNISYS

店頭での現金チャージが可能



UNISYS

9

©2016 Nihon Unisys, Ltd. All rights reserved.

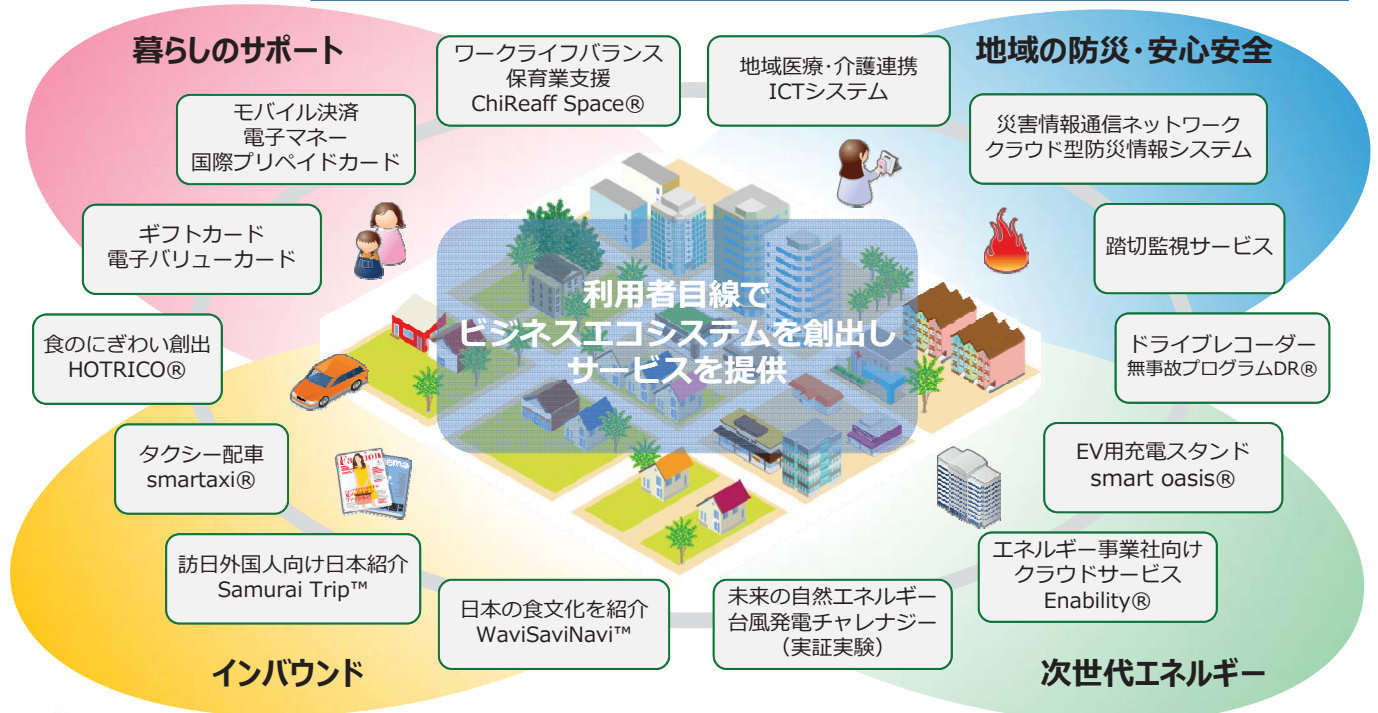
さらに、今まで発行者が決まっているプリペイドカード事業を展開してきましたが、いわゆる国際ブランドがついたプリペイドカードに対してのチャージポイントビジネスも順調に拡大しております。

2015年7月より開始しておりますが、カード発行事業社様とチャージポイントであるローソン様を結ぶゲートウェイシステムを提供しております。

現在、国内唯一の大規模チャージ拠点としてローソン様と共同で、国際ブランドプリペイドカード発行事業各社様への展開を進めております。

ライフ イノベーション

✓ 実績あるサービスをもとに、異業種をつなぎ社会課題の
解決を目指すビジネスエコシステムを創出



ライフイノベーションの分野の取り組みをご紹介します。

このページにありますように、これまで当社は、医療・介護やエネルギー、防災、交通、決済など様々な分野で、それぞれサービスを提供してまいりました。

これら実績あるサービスをもとに、異業種をつなぎ新たなサービスを生み出すことで、社会課題の解決を目指すビジネスエコシステムを創出していきたいと考えております。

ビジネス ICT

✓ 従来型のビジネスモデルからの変革を進め、
収益性を拡大

変革のポイント

リユース

サービス化の推進

導入型ビジネスの拡大

主な実績

- ✓ 小売店舗向けや通販向け導入型ソリューションビジネスとリユースの拡大
- ✓ 金融機関向けフロント系や戦略系ビジネスを中心に、先進的なプラクティスやソリューションの展開
- ✓ エネルギー改革に伴う新規事業者向けビジネス増加
- ✓ クラウド基盤構築サービスの提供

そして、ビジネスICTプラットフォームの変革領域でございますが、安定した収益基盤の構築を目指して、リユースですとか、サービス化の推進、導入型ビジネスの拡大に力を入れることにより、着実に成果を上げてきております。

一例としては、小売店舗向けなどの導入型ビジネスの拡大や、開発実績のあるものをリユースして収益力の向上を図る、金融機関向けフロント系や戦略系ビジネスを中心としたソリューション展開、さらには、電力自由化等エネルギー改革に伴う新規事業者向けビジネス増加などで実績が出ております。

企業風土・
人財改革/
投資戦略

✓イノベーションを起こす風土の醸成

働き方改革

日本ユニシスグループの働き方改革 WorkStyle Foresight 2016

- 目的**
1. マネジメントスタイルの変革
 2. イノベーションを喚起する風土の醸成
 3. 個人の生活充実と成長促進

課題 施策

課題	施策
時間 場所	価値観スタイル変革 ・VMM (Visualized Management Method) の推進 ・在宅勤務 ・長時間労働の削減 ・ペーパーレス ・スマートワーク ・有給休暇取得
オフィス	環境変革 ・サテライトオフィス ・フリーアドレス ・来客エリア見直し ・会議室見直し
ICTツール 制度	プロセス変革 ・業務変革ワークショップ (経営マネジメント施策) ・会議方法改革
価値観	システム変革 ・クラウドファースト (Office 365@) ・Skype@利用促進 ・モバイルファースト (mobiGate@)

オープンイノベーションの推進

リバネス社主催の、科学・技術を活かした事業の創造を目指すベンチャー企業の新たな発掘・育成を行うシードアクセラレーションプログラム「TECH PLANTER」にパートナー参加



出典：株式会社リバネス「創業応援」2016年9月号

こういった取り組みをさらに加速させるために、イノベーションを起こす風土の醸成に取り組んでおります。そのためには、企業風土改革や人財改革が重要であります。

「Workstyle Foresight 2016」と名づけて、在宅勤務の促進やサテライトオフィスの整備、スマートデバイス/クラウドの活用を軸とした働き方改革の取り組みを加速させております。

場所や時間に制約されない新しい働き方により、マネジメントスタイルの変革、イノベーションを喚起する風土の醸成、個人の生活充実と成長促進の3つ実現を狙ったものでございます。

また、オープンイノベーションの推進ということで、IT以外のリアルテクノロジーを持ったベンチャー企業を育成するリバネス社と協同で、

「TECH PLANTER」のパートナーとして参加をして、積極的にベンチャーあるいはスタートアップとのコラボレーションを進めております。

優れたベンチャー企業の発掘と「Open Innovationへのチャレンジ」にもつながり、時代の変化のスピードに呼応できる価値創造を目指し、

未来を先回りした研究・ビジネス創造に取り組んでまいります。

✓日本ユニシスグループ、
日経BP社「日経コンピュータ 顧客満足度調査 2016-2017」にて
3部門で1位を獲得

日本ユニシス

- 「ITコンサルティング／上流設計関連サービス（メーカー）部門」1位
- 「システム開発関連サービス（メーカー）部門」1位

ユニアデックス

- 「システム運用関連サービス（情報サービス会社）部門」1位
- ※ユニアデックスの本賞の受賞は、2012年度よりで5年連続



日経コンピュータ 2016年9月15日号
顧客満足度調査 2016-2017

ITコンサルティング/上流設計関連サービス（メーカー）部門（日本ユニシス）
システム開発関連サービス（メーカー）部門（日本ユニシス）
システム運用関連サービス（情報サービス会社）部門（ユニアデックス）

第1位

出典：日経コンピュータ 2016年9月15日号 顧客満足度調査 2016-2017

最後になりますが、今回、バドミントンでわたくしどもの社員が金メダルを獲得させていただきました。皆様応援大変ありがとうございました。その金メダルに負けじということで、会社のほうも金メダルをいただきました。

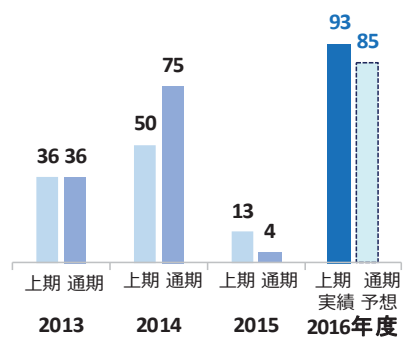
日経BP社が毎年主催しております日経コンピュータ顧客満足度調査におきまして、日本ユニシスグループは、IT部門のコンサルティング上流設計、開発、運用管理において、日本ユニシスはコンサルティング上流設計と、開発部門で1位を、ユニアデックスは運用関連部門で、これは5年連続になりますが1位を獲得させていただきました。

これにつきましては、お客様にご評価いただいたということ、今後の期待の現われということで、この成果に満足することなく、さらに研鑽を積んで、より良いサービスを提供していきたいと考えております。

▼ 今年度上期実績 ▼ 前年度上期実績

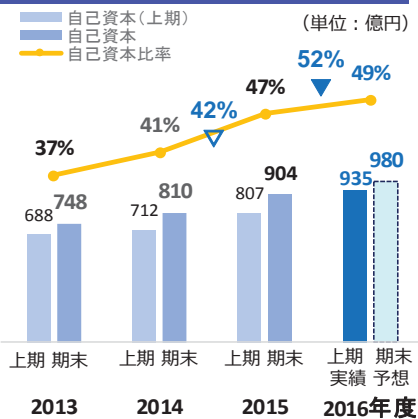
フリー・キャッシュ・フロー

(単位：億円)



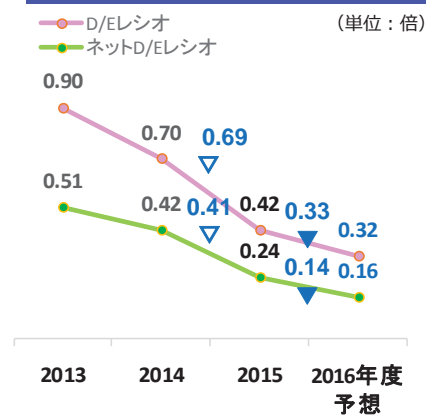
自己資本

(単位：億円)



D/Eレシオ

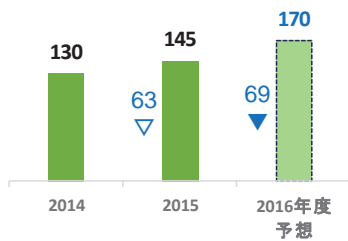
(単位：倍)



売上高

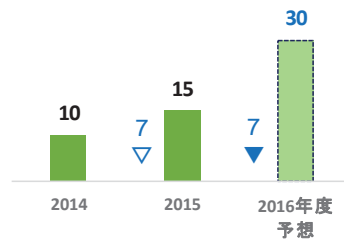
デジタルイノベーション

(単位：億円)



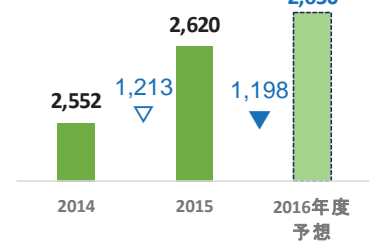
ライフイノベーション

(単位：億円)



ビジネスICTプラットフォーム

(単位：億円)



Foresight in sight

UNISYS

(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。